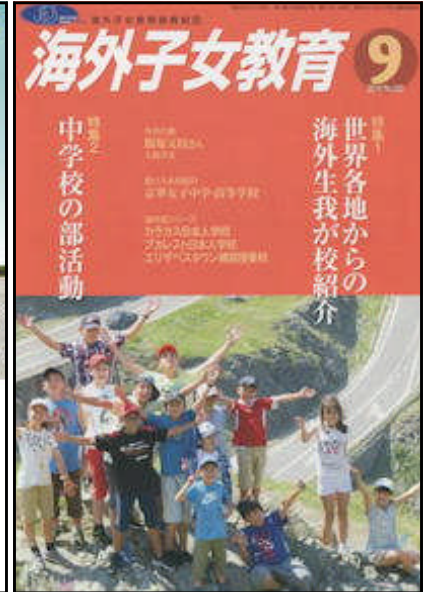


平成 28 (2016) 年 9 月 30 日  
在ベネズエラ日本国大使館  
附属カラカス日本人学校発行

目指す児童生徒像 よく考える子 思いやりのある子 進んでやりぬく子 強くたくましい子 日本もベネズエラもよく知る子

**世界中・日本中の人々に知って欲しい！伝えたい！ 世界一楽しい学校！がベネズエラにあることを！  
そして、そこで育まれている子どもたちと先生たちの心温まる日々の学校生活のことを！**



■■ 海外子女教育振興財団発行「海外子女教育9月号」海外校シリーズに本校が紹介されました！ ■■

以前、「アビラ」でも予告しておりました「海外子女教育9月号」が、日本人学校に届きました。(表紙はルーマニアのブカレスト日本人学校の写真です。) カラー2ページで、本校で用意した原稿や写真を編集部で美しくアレンジしてくださいました。子どもたちは、自分の学校が本に載るのがすごく嬉しくて、1日中大興奮でした。カラカスの一生の思い出になるよう、各家庭にも1冊ずつ配布しました。

**カラカス日本人学校をもっともっと知り、もっともっと好きになるために… (その130)**

**カラカス日本人学校はみんなの大切な、大切な宝物です！ NO. 25**

本校 41 年の歴史の中で、初めてのことが今年ありました。それは、隣国ブラジルで開催されたオリンピック・パラリンピック大会です。南米初のオリンピックですから、当然のことです。ブラジル代表として、多くの日系人の方々も活躍されていました。これも中南米特有のことです。特にブラジルは明治以来、非常に多くの移民を受け入れてくださった国です。そんな歴史も垣間見ることができました。すぐ隣の国で開催されたオリンピックですが、実際に行くことは極めて困難でした。そんな中でも、本校の子どもたちはテレビやPCでオリンピックを観戦しました。以下がその感想の一部です。カラカスにいたから感じたりオオリンピックの感想です。「…わたしは、このオリンピックを見て、みんないっしょうけんめいがんばっていることがわかりました。だから、わたしもマルティニさんのように人を助けたり、やさしくしたりしたいです。また、女子バドミントン選手のように、あきらめずにさいごまでやりぬく強い気持ちを持ちたいです。」「…オリンピックは、ぼくたちに夢を与えてくれるので、「いい大会だな。」と思いました。こんなオリンピックをいつまでも続けてほしいです。」「…私は、この 2016 年夏のリオ・デ・ジャネイロオリンピックを見て、勇気づけられたこと、感動したことなど、いろいろなことを体験しました。また、次の夏のオリンピックは、東京で開催されるということをとっても強く感じました。私はこうやって、勇気や感動を与えてくれる日本人選手のことを、これからもずっと、ずっと応援したいです。」「…私にとってオリンピックは、選手一人一人の成果、今までの努力を発揮する場所だと思えます。また選手だけでなく、見ている私たちにすばらしい感動を与える大会だと思います。選手のがんばりを見てみると、私もがんばろうという気持ちになれます。何があってもあきらめないという根性が大切だと、選手が私に言っているようでした。カラカスでこれからも今まで以上にがんばります。」

